岐阜市における小規模公園の現状に対する一考察

岐阜工業高等専門学校　正会員　廣瀬康之
岐阜工業高等専門学校専攻科　学生員　○山里淳一

1．はじめに

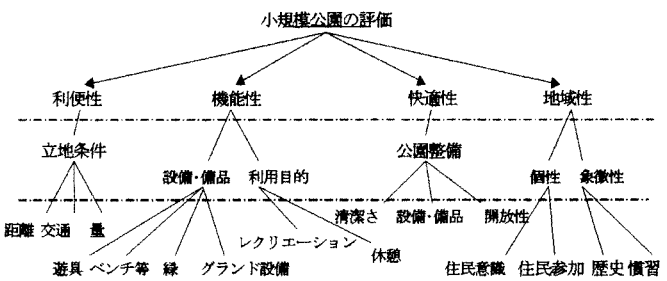
近年，住民の小規模公園に対するニーズが高いにも関わらず，余り使われていない小規模公園もあり，活気に乏しい様子が目に付くことが多い．それは小規模公園の魅力不足に起因するところもないわけではないが，住民自身が公園に無関心であったり，十分に使いこなしていないとも考えられる．そこで本研究は今後の小規模公園のあり方について考えるための材料を示すため，岐阜市を例に挙げて小規模公園の現状をもとにアンケート調査を行い地域住民と小規模公園の関係を分析することを目的とする．

2．岐阜市の小規模公園の現状とアンケートの概要

この研究で注目する小規模公園とは，都市計画法で定められた街区公園，行政の管轄であるが都市計画法では定められていないポケットパーク，教育委員会が管理する「子ども遊び場」（以後，小広場と称す）の３種類を小規模公園と称す．街区公園よりも規模の小さい公園として幼年公園があるが，都市計画法では整備目標が定められていないので岐阜市では設置されていない．

研究対象である岐阜市は平成８年に「中核市」に移行し，人口 40 万人，面積 196.20 km^2（平成９年 12 月現在）．岐阜市の公園面積は 298ha，人口１人当たり開設都市公園面積の岐阜市平均が 7.34m^2，全国平均が 7.05m^2である．岐阜市の公園別割合では総合公園と運動公園が約 50%を占めているが街区公園は 16.4%で１人当たりの公園面積は 0.83m^2，街区公園の整備目標 1m^2に達しておらず満足しているとは言えない[1]．地区ごとにみると市の中央部・南部では設置数，設置面積とも北側に比べ少ない．これは人口集中地区が多く，区画整理がされているので公園を設置するスペースがないというのが現状である．

アンケート調査は市民グループ「岐阜まちづくりネットワーク」の協力を頂き実施した．対象者は公園に一番身近で利用しやすいと思われる小学生・中学生にし，岐阜市の小学校 49 校，中学校 23 校においてそれぞれ小学校の５年生・２年生から１クラスづつ，中学校の２年生・１年生から１クラスづつ，各クラス 40 部の計 5760 部配布した．回収率はクラスによって人数が違うため，全部で 4599 部回収したが，全学校全クラスから回収できたので 100%に近いといえる．質問項目については図－１のように小規模公園の評価を利便性，機能性，快適性，地域性というように公園の魅力・住民意識という視点から提案し，普段利用している遊び場について，計 14 項目を５段階評価および２択（はい・いいえ），記述によりアンケートをおこなった．



図―1　小規模公園の評価

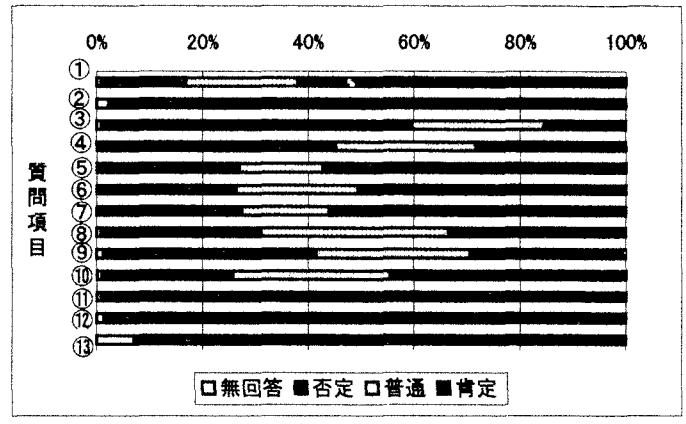
3．アンケート集計結果及び考察

アンケートの質問項目と全体の集計結果を表－１と図－２および図－３に示す．
５段階のアンケートであったが，比較しやすいようにするため３段階（肯定５・４，普通３，否定２・１）でまとめた．

一番評価が低かったのは公園数による質問（③）で，岐阜市の現状を物語っているといえる．逆に評価が高かったのは公園までのアクセス（①）についてで，誘致距離を調べたが 50%以上誘致距離を満足している地域は小学校 49 校区中 11 校区であったので意外な結果をみせた．また，街区公園では禁止項目が多く，中でも球技が出来る設備を備えた街区公園は 142 件中 16 件だったが評価は高い．これは図－３を見ると学校の校庭の利用率が高い．このことから球技する事を目的として遊んでいる子ども達が多いことがわかる．学

表―1 アンケート質問項目

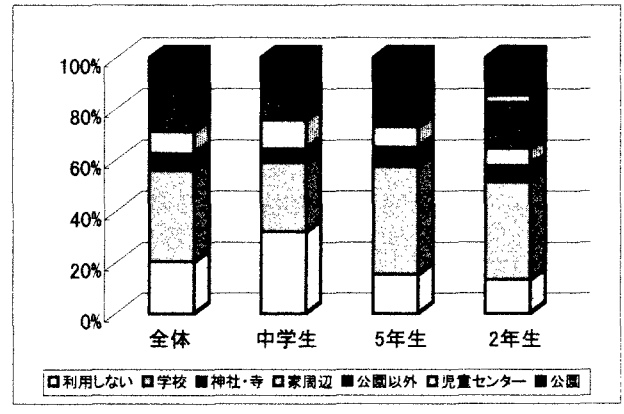
①	公園までは近く，時間はかからない
②	公園まで交通量の多い道はない
③	家の近くに公園がたくさんある
④	面白い遊具があり，豊富である
⑤	休憩設備が整っている
⑥	緑が豊富である
⑦	広場があり十分球技ができる
⑧	きれいな公園である
⑨	遊具やベンチは傷んでいない
⑩	柵などがなく見通しがよい
⑪	公園の清掃をしたことがある
⑫	近くの公園で催し物がある
⑬	問12の催し物に参加したことがある
⑭	よく遊ぶ場所は？



図－2 公園（遊び場）利用に関するアンケート集計結果・全体

年別にみると，学年が上がるにつれ評価が低く，中学生はあまり公園に興味がないと思われる．遊び場についても同様のことがいえる．

図－4および図－5はアンケートの集計結果の属性別，属性と質問項目の相関関係を表したものであるが，まず図－4では利用率と利便性では負の値がみられ，機能性とでは0.518と高い値となった．これから公園へのアクセスよりも利用目的による遊び場選びがなされている．図－5では太字の数字は比較的高い数値を示したものであるが，これからも機能性（④・⑤・⑥・⑦）との関係するものが高い数値を出しており，機能性が高いと利用率が高く，快適に遊べることがわかり，機能性が重要であるといえる．しかし，利便性との関係は低い数値であり，岐阜市では小学生や中学生にとって自宅周辺に利用目的に合う公園が少ないことがわかる．今後，球技のおこなえるスペースの確保，または防球用のネットの設置により小規模公園の利用率の向上が期待されると思われる．



図－3 ⑭遊び場所集計結果

表－2 アンケート属性別相関分析

	利用率	利便性	機能性	快適性
利用率	1			
利便性	−0.033	1		
機能性	0.518	−0.093	1	
快適性	0.231	0.031	0.652	1

表－3 アンケート相関分析

	利用率	利便性	機能性	快適性
①	0.186		0.114	0.175
②	−0.255		−0.435	−0.229
③	0.029		0.252	0.219
④	0.343	−0.185		**0.677**
⑤	**0.549**	−0.171		**0.560**
⑥	**0.410**	0.051		**0.418**
⑦	**0.414**	0.002		**0.493**
⑧	−0.054	0.026	**0.458**	
⑨	0.386	0.046	**0.640**	
⑩	0.286	0.006	**0.568**	

4．今後の展望

アンケートの結果を相関関係にすることにより公園（遊び場）の選択の仕方を明確に表すことが出来た．しかし，今回のアンケートで小規模公園に的を絞れたかということに疑問が残ること，研究目的である地域住民との関係を表す上ではデータに不足がある．小学生や中学生以外で公園を利用する大人やまたは幼児の意見を取り入れ，今後の小規模公園のあり方について考える必要がある．

＜参考文献＞

1）岐阜市都市計画部公園緑地課・景観整備課：岐阜市の公園緑地，1997